

「教育は人なり」人とのつながりで活用を進める ICT 支援員との連携を最大限に生かした所沢市の取り組み

TGS構想で一番大切にしているのは「誰一人取り残さない」ということ。教員は10年後20年後の未来を見つめながら、日々目の前の児童生徒と向き合っています。ICT活用を進めるため、必要に応じて



所沢市教育委員会 指導主事 齋木 修二郎 先生

各学校の現場では他の学校での取り組みが見えにくいのですが、ICT支援員がその間を取り持ち、他校でのポジティブな活用情報を積極的に伝えてくれています。また、疑問がある時に頼れるICT支援員がいることで、教員たちのモチベーションアップにもなっています。学校は学び合う集団なので、それを助けてくれるICT支援員の存在はほんとに大きいと感じています。学校教育は何かと保守的になりがちですが、児童生徒のために挑戦したいという教員の想いとChromebookがあれば、私たちが描く未来が実現できるはずです。我々もICT支援員と精一杯現場を支えていきます。



所沢市教育委員会 指導主事 森谷 慎平 先生

ICTのCはコミュニケーションです。個別最適な学びはもちろん、他者と関わり合う協働的な学びをどう深めていくかいつも考えています。設備が整えばそれで活用が進むわけではありません。困った時にすぐアドバイスをくれるICT支援員も巻き込んだ、人と人とのつながりがあってこそ活用が進んでいると感じています。教育現場では教員のスキルアップを目指すだけでなく児童生徒がどう成長していくかで考える必要があります。今後学び方や授業スタイルがどんどん変わっていくでしょう。多くの可能性を秘めている未来に、我々大人たちも学び続けていきたいと思っています。



所沢市教育委員会 ICT 教育担当主査 酒井 真澄 先生

— ICT教育推進研修会×ICT支援員 —

令和5年度に3回実施した「ICT教育推進研修会」にICT支援員も参加し、活用事例の共有を行いました。教育委員会が積極的にICT支援員を巻き込むことで日々の支援につながり、学校での活用も広がっています。



教育委員会様との定期的な情報共有の様子

— 教員のICT活用カスルチェックの取り組み —



ふたば

ICTを使った授業を始めることができ、子供たちに適切に指導することができる



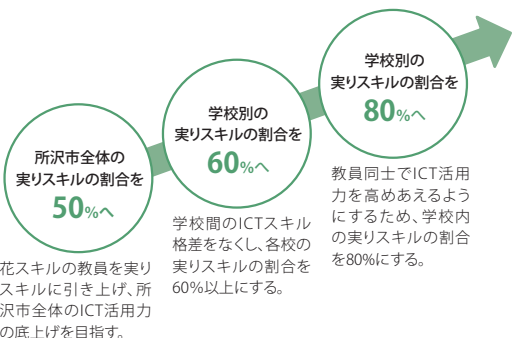
花

導入アプリケーションの基本操作が身に付き、授業でICTの活用ができる



実り

ICT機器を使って、子供たちの新たな学びを実現することができる



新しい学びをデザインするICT活用

Utilization of information and communication technology for the future of children.

埼玉県
所沢市教育委員会様

Case 5



所沢市教育委員会

子供たちを誰一人取り残さず 豊かな創造性を育む

富士電機 ITソリューション株式会社だからこそできること



設計・導入から運用保守まで
トータルでサポート

設計、導入、運用、保守までトータルでサポート可能なため、継続的な運用アドバイスや支援がスムーズに行えます。



機器・ソフトにとらわれない
柔軟な導入・支援が可能

お客様のイメージする未来のニーズに合わせて最適な機器・ソフトの柔軟なご提案や支援が可能です。



教育委員会様と連携し
先生方の活用を支援

学校での支援内容やヒアリング内容をフィードバックし、自治体様全体での活用を推進します。

営業	SE	CE	スクールアシスタント	コールセンター / ヘルプデスク
提案・相談窓口	設計・導入 運用サポート	ハード修理 設置調整	ICT活用支援 支援管理	問い合わせ受付窓口 操作支援

ご提案・整備・活用支援までトータルにサポート

ハードの調達・機器導入・システム構築・運用支援まで一括した導入・サポートが可能



「教育の本質」に迫る ICT 活用を広げていくために

埼玉県所沢市教育委員会では GIGA スクール構想を独自のものに落とし込むため、「GIGA スクール構想 @TOKOROZAWA (TGS 構想)」を立ち上げ、保護者への理解促進、学校への伴走支援を丁寧に進めてきました。導入から3年目を迎える現在、学校現場で学び合いが活発に行われ1人1台端末の多様な活用が生まれています。



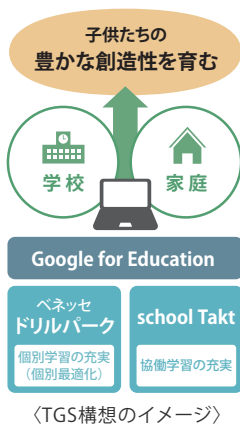


所沢市教育委員会
中島秀行 教育長

教育委員会、校長を経験後2022年4月より現職。
強力なリーダーシップでGIGAスクール構想
@TOKOROZAWA (TGS構想)を牽引している。

「GIGAスクール構想@TOKOROZAWA (TGS構想)」について詳しく教えてください。

GIGAスクール構想を所沢市独自のものに落とし込んでいくために、既存の学力向上推進事業「学び創造アクティブPLUS」※1と結び付けながら、ICTの効果的な活用について研究を進めてきました。Chromebook導入当初から家庭への持ち帰りを想定し、家庭用ACアダプタも併せて整備したことや、保護者向けのリーフレットを定期的に配布して、家庭での理解を深めていただくことには特に意識をして取り組んできました。



〈TGS構想のイメージ〉

GIGAスクール構想の端末整備後に、課題として感じられていたことはありますか。

令和3年度に、ネットワークの整備を行い、まずはChromebookの活用場面を増やすことを目標に取り組みできました。活用する場面が増えてくると同時に「ICTの利用が目的化」してしまわないよう、授業の中でどう活用できるかが課題でした。

令和4年度に富士電機ITソリューションのICT支援が始まり、授業の中での効果的な活用を具体的に支援してもらえたことで、活用を一步前に進めることができました。

2023年には教員のICT活用力向上のために、具体的な目標(教員の60%を実りスキル※2にする)を定められたのです。

もともと、学校には学び合いの文化があります。新たに導入されたICT機器についても、教員同士の学び合いによって、より効果的な活用につなげていけるようになることを期待しています。そのため、60%の教員が自信を持ってICT機器を使いこなせると言える状況になることで、この学び合いが一層深まり、子供たちの学びに還元されていくと考えています。

ICT支援員がTGS構想において担っている役割は何か。

各学校のニーズに応じた校内研修の講師を務めてもらったり、授業でのより効果的な活用法を提案してもらった

Interview

子供たちを誰一人取り残さず豊かな創造性を育む

所沢市教育委員会ではGIGAスクール構想を「TGS構想」と称し、保護者への理解促進、学校への伴走支援を丁寧に進めてきました。導入当初から家庭での端末利用を想定した整備を行い、児童生徒が主体的に学ぶことができる環境づくりを徹底。その想いについて中島教育長にお話を伺いました。

りすることで、それまでICTを活用しきれていなかった教員が一步踏み出すきっかけができ、子供たちの「深い学び」の実現に大きく貢献してくれています。まずは今年度の目標達成に向けて引き続き、教員に伴走して支援してもらいたいと思っています。

教育委員会、各学校のベクトルが揃っている印象を受けますが、普段どのようなことを意識されていますか。

目指すべき方向性は、校長や教育委員会のメンバーに継続的に発信することで、全体のベクトルが揃ってくると感じています。同じベクトルに向かって、各学校が取り組んでくれることで、市全体で少しずつ目標に近づいていき結果に表れてきています。

また、体制づくりも重要です。学校が「こんな取り組みをしたい」と思った時に、学校の思いを具現化できるようにバックアップしています。

今後のビジョンについておきかせください。

教師は「職人」であり、10年後20年後に子供がどうなっているかを考えながら「今、どんな関わりをするのか」を考えることが仕事です。子供たちが一人一台端末を「道具」として当たり前に使ってこさせる環境を整えることで「TGS構想」を特別なものではなく、教育の本質に迫るものにしていきます。ICTをあくまでも手段として、自ら考える力を伸ばし、正しい判断力を身に付けてほしいと願っています。子供たちが持っている「心身のたくましさ」「未来を拓く知恵」「ふるさと所沢を愛する心」の三つの“宝”を掘り起こして、子供たちの無限に広がる可能性を大きく育てていきます。

※1 「学び創造アクティブPLUS」:令和2年度より取り組んでいる所沢市学力向上推進事業。学校・家庭・地域が一体となり、児童生徒の学力向上を図っている。

※2 実りスキル:教員のICT活用スキルチェックによるレベル分けの呼称。ICT機器を使って子供たちに新たな学びを実現するレベルをさす。



所沢市

埼玉県所沢市

埼玉県の南西部に位置する。日本初の飛行場が開設されたことから「日本の航空発祥の地」としても知られる。教育委員会・学校が一丸となり「子供たちの豊かな創造性を育むため」に着実なGIGAスクール構想@TOKOROZAWA (TGS構想)の実現に向けて取り組んでいる。

Close UP



椿峰小学校

思考の時間を確保するための「読み書き計算タイピング」



T1グランプリの様子。この日はクラス対抗戦で各チーム5人の総入力文字数で競う。5分間に1,000文字を超える児童もいる

3年生以上は、毎週金曜日の朝に「チャレンジタイム」の15分間で「タイピング検定」を行っています。5分間600文字を超えると「名人」の認定証がもらえ、名人になると「T1グランプリ」に参加できる仕組みです。タイピング力を鍛えることで、授業の中での入力時間が短縮でき、思考の時間が確保できるようになりました。また、目標を持って粘り強くチャレンジする姿や集中力の高まりなどにもつながっています。



ICT支援員のアドバイスでGoogleサイトを活用

5年生の総合で、環境についての新聞を作る時にICT支援員から「Googleサイト」を紹介してもらいました。一人一人が個人でサイトを作成し、Classroomでお互いのサイトを共有しました。



「Googleサイト」は、レイアウトが自由に作成できるため、子供たちの表現の工夫が見られました。



「ノートを取るときは、紙でもChromebookでもやりやすい方を選択してね」と日々、声をかけている

Close UP



所沢中学校

生徒主体でタブレット活用ルールを作成



Classroomで出題された課題を生徒一人一人が学び方を選びながら取り組む

生徒の自主性を養うため、教師が先に口を出さずに生徒の発言を待つという教育を実践しています。タブレットの活用ルールは、子供たちの中から必要だよなという雰囲気が生まれ、各学級から1名ずつ参加するChromebook(クロムブック)利用委員会が話し合って作成しました。



子供が本来持っている「学びたい」を引き出す

どの教科でも子供たちの能動性を引き出すことを意識した授業展開を取り入れています。例えば、社会科の新しい単元の導入では、Chromebookで班対抗のクイズを行いました。子供たちは地図帳の中から答えを探し出す過程で、様々な情報に触れています。学校で協働して取り組むからこそ視野が広がったり、自ら学びたいと思うきっかけが創り出せたらと考えています。



教員がクイズ作成サイトで作成したクイズに班で協力しながら取り組む

Profile

「はじめに子どもありき」を学校経営の基本理念として掲げ、子供の主体性を尊重した教育活動を実践している。生徒一人一人が「能動的に学ぶ授業」でICTを積極的に取り入れている。



校長 江原 勝美 先生

所沢市全体として、子供主体の活動を重視する文化があり、子供同士の話し合い活動も多く取り入れています。子供が自らテーマを決めて探究しますが、ICTを活用することで普段消極的な生徒の考えも拾いやすくなりました。ICT支援員には、職員室や授業中の教室を巡回してもらい、教員が悩んでいることに対してアイデアを提案してもらいます。分からないことを調べる時間ややりたいことを実現するために悩む時間が解消できていて、とてもありがたいです。



授業では、子供の学ぶ意欲を引き出し、社会科を学ぶきっかけを創り出せたらと思っています。埼玉県の社会科入試問題では、記述式の説明問題が増えてきており、いかに自分の言葉を整理して表現できるかが問われています。そのような力を身に付けていくためにも、ICTを上手に活用して授業でいかに思考・判断・表現の機会を設けられるかが大切であると考えています。



佐瀬 孝太郎 先生

チャレンジタイムにはタイピングの後に、学校HPを見て「いいね!」を押すキャンペーンを行っています。「いいね!」数が「切替」だった場合、スクリーンショットを持ってきてもらってルーレットが回せるお楽しみもあり、子供たちが学校のことに興味を持ち、できることを考える良ききっかけになっています。



校長 森泉 周治郎 先生



「自分の学校を自分たちで良くしていける」という経験を子供たちにたくさんさせてあげたいと考えています。環境委員会がピオトープの名前を募集するために、全校児童に「フォーム」でアンケートを取ったり、音楽委員会が「ドキュメント」で作成した音楽会の案内をHPに載せてほしいと相談に来たり、子供たち発信の活用がどんどん広がっています。



教頭 内田 浩太 先生

これまでは、書くことがゆっくりな子が話し合いに参加できないこともありました。振り返りや意見の入力をChromebookで行うことで、全体的に話し合いに集中することができるようになってきたと感じます。今後は、子供たちの学びを深める場面を、さらに工夫して活用していきたいです。



三浦 舞子 先生